

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学Ⅱ		講義	三木 雪子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
人体では、生命維持活動（呼吸・循環・消化吸収・排泄）、外界からの刺激に対する反応や働きかけ（感覚・運動）が絶え間なく行われている。また、これらを調節・統合するために、神経系や内分泌系が働いている。これらの基本的な正常機能を理解し、生命現象への理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の仕組みについて説明できる。 ・尿生成と排尿について説明できる。 ・血液循環調節について説明できる。 ・消化と栄養の吸収について説明できる。 ・内分泌機能について説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	血液（1）： 血液の構成、血漿、赤血球			
2	血液（2）： 白血球、血小板、止血機構			
3	血液（3）： 血液凝固異常、血液型 生体防御（1）： リンパ系			
4	生体防御（2）： 生体防御関門、炎症反応、免疫反応			
5	生体防御（3）： 免疫療法、免疫異常 呼吸器系（1）： 気道と肺、換気			
6	呼吸器系（2）： ガス交換、呼吸調節			
7	呼吸器系（3）： 呼吸の指標と異常 体液系（1）： 腎臓と尿路、尿生成、排尿の仕組み			
8	体液系（2）： 尿の性状、体液区分、体液調節			
9	体液系（3）： pH調節 消化器系（1）： 消化と吸収； 口腔、食道			
10	消化器系（2）： 胃、小腸の働き			
11	消化器系（3）： 大腸の働き、排便の仕組み、膵臓の働き			
12	消化器系（4）： 肝臓の働き、消化管ホルモン 代謝（1）： 物質代謝			
13	代謝（2）： エネルギー代謝 体温調節（1）： 体温の意義			
14	体温調節（2）： 調節中枢の働き、発汗、体温異常 内分泌（1）： 内分泌・ホルモンとは、視床下部と下垂体（内分泌中枢）、松果体			
15	内分泌（2）： 甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	單元ごとに課題を提出		
自由記載	定期試験と課題で総合評価する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだの構造と機能	A. シェフラー他		西村書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖	三木明德		金芳堂	
自由記載	解剖学教科書			
備考				